

福岡・近畿パーキンソン病研究の結果
葉酸、ビタミン B 類摂取とパーキンソン病リスクとの関連

背景：神経毒性の指摘のあるホモシステイン濃度を減じる葉酸、ビタミン B 類がパーキンソン病に予防的であるのかもしれませんが。

方法：症例群は UK Parkinson's Disease Society Brain Bank のパーキンソン病診断基準に基づき発症後 6 年未満の 249 名の患者です。福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院、京都大学、京都市立病院、九州大学、久留米大学、大牟田病院、刀根山病院、南京都病院、和歌山県立医科大学でリクルートしました。対照群は福岡大学、大阪市立大学または宇多野病院に入院中もしくは通院中の患者で、神経変性疾患と診断されていない 368 名としました。性別、年齢、居住地、喫煙、教育歴、BMI、食事グリセミックインデックスとコレステロール、ビタミン E、ビタミン C、β カロテン、カフェイン、鉄、アルコール、葉酸、ビタミン B 類摂取を補正しました。

結果：ビタミン B₆ 摂取が多いほど、パーキンソン病のリスク低下と有意な関連を認めました。葉酸、ビタミン B₁₂、リボフラビン摂取とは関連がありませんでした。

		Quartile				P for trend
		1 (lowest)	2	3	4 (highest)	
ビタミン B ₆	摂取量(mg/4184 kJ)	0.14–0.52	0.53–0.62	0.63–0.74	0.75–1.37	
	症例/対照群	77/92	59/92	61/92	52/92	
	補正 OR	1.00	0.56	0.69	0.48	0.10
	(95% CI)		(0.33–0.94)	(0.38–1.25)	(0.23–0.99)	

結論：日本人においてビタミン B₆ 摂取はパーキンソン病に予防的であるのかもしれない。

出典：Murakami K, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Fukushima W, Kiyohara C, Tsuboi Y, Yamada T, Oeda T, Miki T, Kawamura N, Sakae N, Fukuyama H, Hirota Y, Nagai M, the Fukuoka Kinki Parkinson's Disease Study Group. Dietary intake of folate, vitamin B-6, vitamin B-12, and riboflavin and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan. Br J Nutr. 2010; 104: 757-764.